

公益の風 #7

東北公益文科大学理事・後援会長

上野 隆一



庄内の地域課題として最も大きなことは何かと
いえば、人口減少の進行
と高齢化比率の増大が引
き起こす地域経済の停滞
と活力の衰退があげられ
る。

旧町村を含めた現在の
鶴岡市の人口が最も多
かったのは昭和30年頃で
ある。

当時は178千人が鶴
岡、藤島、羽黒、櫛引、
朝日、温海の各地域に居
住していた。

この人口が66年後の今
日には124千人に減少
している。その差54千人
はどこに消えてしまった
のか。人口減少は全地域
にわたって進行している
が、中でも朝日地域
と温海地域は地滑り的とい
っても過言ではない。

左下のグラフは最大の
昭和30年を100にした
5年ごとの人口減少の状

大学院は過疎研究に挑戦してほしい

況を示しているが、朝日、
温海の減少率のすごさは
図を作成して私も驚いた。

ちなみに同じグラフの中
にある三和3区のデータ
は私の住むムラの推移
である。

藤島地域の三和は稲作
農家を中心とした標準的
な集落であり、人口減少
もそれなりに進行し、高
齢化率は昨年ついに50%
を超えてしまった。

このように過疎は中山
間地から平場の農村、そ
して市街地へとわずかの
間に急速に進行してい
る。

過疎の進行による生活
上の課題は多すぎてここ
では書ききれないが、私
がここで提起したいのは
産業基盤の再構築に向け
ての取り組みについてで
ある。

よく企業経営の条件は
「人、モノ、カネ」とい
われるが、その中で最大
の条件である人間がいな
くなってしまうというこ
ろはない。

公益大学はその名の通
り公益学を追究する大学
である。したがって地域
課題を究明しその対策を
作り、アプローチを図る
のは原則論として建学の
精神を実現することとい
える。特に大学院は入学

する院生も多様で、社会
人経験の豊富な人も多
く、社会的事象を理念や
知識だけの理解にとどめ
ず、現場からの視点で解
決をさぐる人材の育成が
求められる。

これからの過疎の進行
により確かに人口は減る
かもしれないが、重要な
のはこの地に住む人たち
の暮らしが成り立つ経済
基盤が確保されること
である。

大学院への期待は、全
国の中でも課題先進地域
に位置付けられる庄内地
域をしっかりと見つめな
おし、人口が減っても高
齢化率が上がっても企業

が存立し、未来の地域経
営に希望を持てる方策を
創り出してもらいたいこ
とである。

客観条件の良し悪しが
事の正否を決めるのでは
なく、良いなら良い条件
で方向を作り、条件が悪
かったら悪いなりにボジ
ティブ思考で柔軟な着想
を持てば、それなりに成
果をつくれるような気が
してならない。

紙面を借りて恐縮であ
るが、大学院改革の検討
を行う運営委員会の諸先
生の勇気と情熱により、
大学院が大きく変貌され
んことをご期待申し上げ
る次第である。

「敬天愛人」2022年1月号 Vol.154掲載（庄内日報発行）

4地域の人口減少率

